



平成18年 9月 5日
芽室町立芽室南小学校
学校だより 第 5号
URL <http://www.mina-mi-es.memuro.net/>
発行・題字／竹内光男
編集／栗原賢次

「ばち」は日本の文化



芽室神社の鳥居

芽室南小学校長 竹内光男

日本人には宗教心がないと言われるとカチンときてしまうのは私だけでしょうか。私は、結構信心深い方ではないかと思えます。キリスト教徒やイスラム教徒のように唯一神ではありませんが神も仏も信じています。お盆には墓参りは欠かさないし、わが子の七五三や正月には神社に詣で、受検シーズンともなるとお守りを授かりに行っています。自分の身体に染み付いて自分の生きる姿勢の中に宗教があるからでしょう。考えてみれば、昔の我が家には仏壇と神棚がありました。毎朝、仏壇にご飯を上げ、命日にはお坊さんがお参りに来ていました。仏壇の前に座らせられ、ご先祖様に「南無阿弥陀仏」と合掌し、お坊さんが帰った後の甘いお菓子は、その頃の一番の楽しみでした。祖母は、朝晩、仏壇の前で読経のお勤めをしていました。祖父母が仏壇に手を合わせご先祖様を敬っている姿を見たり聞いたりして、私の宗教心は生活の中で培われ無意識に定着したように思われます。結婚をして所帯を持ったときも、誰に言われることもなく見よう見まねで、神棚をまつりました。大晦日には、息子と一緒に、神棚を掃除し注連飾りや餅を飾り新年を迎える準備をしました。曾祖母が亡くなると写真を飾り、毎朝ご飯を供え、何かあると写真の前で手を合わせています。我が家だけではなく日本中の誰もが生活の中にご先祖様や神様が住んでいると感じていました。(勿論クリスチャンではありませんがクリスマスのプレゼントは必ずしています。) とにかくにも日本人の情緒は、四季折々の中で仏教や神教に育まれたといっても過言ではないでしょう。

今、世界を見ると宗教対立が大きな脅威となっています。自分の宗教以外認めることができないようであり、私のような宗教観を持っている者には理解しがたい世界でもあります。世界平和を唱えながら、大義名分の中で戦争を行なっている国もあるようです。そのことを考えると神仏混合なんでもありの懐の深さは、世界の平和に大いに貢献しているものと自慢の一言も言いたくなります。もともと、私のよ

うな浅く広い神仏信仰に物足りなさを感じ、新興宗教に走り身動きできない若者が絶えないのも事実ですが。

小さい頃は、祖父母に「お前のすること為すことを、ご先祖様や神様がいつも見ているよ」と教えられたものです。何か悪さをすると「ばちがあたる」と言われて育ちました。迷信とは思いつつも、誰も見ていなくても悪いことをすると必ず「ばち」があたり、不運に見舞われたのではたまったものではありませんから、清く正しく美しく？生きることが知らず知らずのうちに身についたようです。もはや理屈ではありません。おそらく日本人であれば誰もが、鳥居や神社の境内で小便をしようとは決して思わないでしょう。「ばち」が怖いからです。「うそをついたら、ばちがあたる」「この、ばちあたりめ」とよく叱られたものです。だから、人が見ていようといまいと、悪いことはしなかった。悪さははたらいたときには、次にくる「ばち」に恐れおののいたものです。まさに先人の知恵であり、社会道徳であり「ばち」の文化とも言えるでしょう。

ところが、核家族時代到来と同時にお年寄りとの繋がりが薄れ、いつの間にか日本人の心の中から神様や仏様を畏敬する心も薄くなったように思われます。「交通事故を起こしても、どんなに自分が悪くても決して謝るな。弁護士が解決する」「自分のミスで起きた事故でも会社を訴えれば大金持ちになる」「金こそ全て」といった合理的(アメリカ的)な考えが闊歩し日本人から日本人らしさを取り上げてしまったように思われます。生真面目で従順、勤勉な姿はもうそこには見られません。「オレオレ詐欺」や姉齒元建築士に見られる詐欺やまやかしの多さには呆れてしまいます。弱者であることを理由に小学生を犯罪の対象者と考える不らちなばち当たり者の多さに危惧し、日本人として寂しい気がしてなりません。世界に誇る日本人のあの繊細な情緒はどこへいったのでしょうか。

最近の学校生活を見ていると、嘘をつくことに慣れている子どもが増えてきているように思えてなりません。自分のことしか考えず都合が悪くなると、それを誤魔化す為に嘘をつく。嘘がばれそうになると次の嘘をつく。嘘に嘘を重ねる姿が情けないです。だからといって学校は警察と違い追求の手がぬるいようで、「うそ得」を許してしまいがちのようです。そんなときに「嘘をついてばかりいると、ばちがあたるよ」と大きな声で言いたいものです。

先人に学ぶとは、四季折々の自然と万物に神々が宿りその神々に畏敬を持つ日本文化をしっかりと受け継ぎ未来に伝えることだろうと思えます。「ばち」の文化を今一度取り戻し、お年寄りが敬われる社会にしていくことが大事なことに痛感しています。



日高の山なみ

2学期が始まりました！

25日間の夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まりました。始業式の日、元気に登校してきた子どもたちの笑顔に校長先生以下職員一同とても嬉しく感じました。

1階ホールには休み中に取り組んだ作品が展示され、どの作品にも一生懸命に取り組んだ跡が見受けられます。夏休み中にいろいろなことを体験し、また、十分にエネルギーを充電したことで、充実した2学期を過ごせることと思います。

2学期は、1年の中で最も長い学期であり、行事も学習も盛りだくさんです。それだけに見通しをもって計画的に授業等を進めていくことが大変重要になってきます。学校として、今、子どもたちに身につけさせなければならない力をよく研修して、この2学期も職員一同協力して取り組んでまいります。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。



スクールバスの利用について

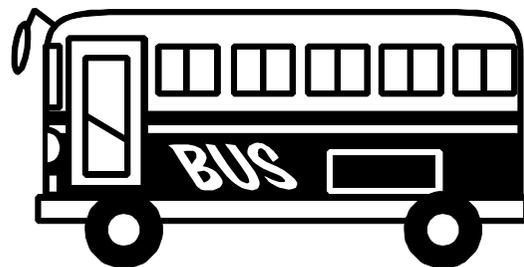
先日もお知らせいたしましたが、スクールバスの登下校以外の利用について、教育委員会への申請が必要となりました。

登下校における児童の安全確保の観点から、教育委員会として児童のバス利用状況を把握する必要性が出てきたためです。

今後は、配布いたしました「連絡票」に必要事項を記入・捺印の上、教育委員会（町中央公民館内）に提出し、許可を得た上で、お子様が登下校以外の路線バスに乗車の際に「許可印付連絡票」を運転手に渡すこととなります。「連絡票」の提出は、申請の手続き上、教育委員会に直接お持ちいただく場合は前日までに、学校を通す場合は3日前までにお願いいたします。

「連絡票」の用紙は、学校に備えてありますので、不足の場合はご連絡ください。

保護者の皆様には、お手数をおかけいたしますが、趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。



新生地区の谷口光男様より、立派な「デンスケ西瓜」（写真）を寄贈していただきました。

谷口さんから西瓜の栽培についていろいろと教えていただいていたところ、育った西瓜を持ってきてくださいました。

西瓜を見た子どもたちの第一声は「うわ～、でっかい！」。計測したところ、周囲が95cm、重さが13.5kgもありました。子どもたちと先生方全員で切り分けておいしく頂きました。

谷口様、有難うございました。



9月の声を聞き、水泳の授業もまとめとなりました。水泳記録会が、低学年は9月1日、中学年は9月4日、高学年は9月5日に行われました。

子どもたちは練習の成果を発揮し、それぞれに成長の跡を見せました。夏休み中、お子さんの練習にご協力いただいたご家族の皆様、ありがとうございました。

水泳の授業は終わりましたが、プールは20日（水）まで使用できますので、水泳シーズンを最後まで楽しんでほしいと思います。

研み・仲な・身の話題

9月の主な行事

1日（金）1～2年生水泳記録会	17日（日）全十勝陸上競技大会
4日（月）全校朝会	18日（月）敬老の日
3～4年生水泳記録会	19日（火）3年生「食」の指導
5日（火）AET交流学习 児童会	20日（水）クラブ
5～6年生水泳記録会	21日（木）4年生研究授業
6日（水）5年生「食」の指導	22日（金）5年生研究授業
10日（日）西部方面陸上大会	めむろまるごと給食
12日（火）午前授業（町内研）	26日（火）児童会総会
13日（水）1・2年生「食」の指導	29日（金）地域参観日～南小まつり
14日（木）6年生修学旅行～15日	30日（土）全道PTA研究大会